

岡本コレクション

豊 達秋 (地質部)
Michiaki BUNNO

原田 穂成 (九州出張所)
Taneaki HARADA

正井 義郎 (総務部)
Yoshiro MASAI



岡本コレクションはもと九州大学理学部講師 理学博士岡本要八郎先生によって収集・研究された鉱物標本で 昭和33年1380点を地質調査所が譲り受け 以来 九州出張所で管理している。その後 昭和35年に先生が故人となられ 御遺族のご好意によって1155点が加えられ総数は2535点余に達した。標本は 木製の堅牢な専用ケースに収納され 保存されているが昭和55年から出張所の一角に展示室を設け コレクションの一部約800点を陳列公開している。

尚 九州大学理学部地質学科が所蔵する「岡本要八郎コレクション」は 約1700点で 先生が「福岡県礦物誌」(1944)と「長崎県鉱物誌」(1958)に記載された標本を主として、地質調査所の岡本コレクションは上記論文に記載されたものを含む九州地方の標本が全体の60%を占めるが 先生が日本のみならず世界各地から 交換や 購入で集められた標本も多く含まれ 昭和35年頃までの我国の主要な産地の鉱物が大変よく網羅された質の高いコレクションである。

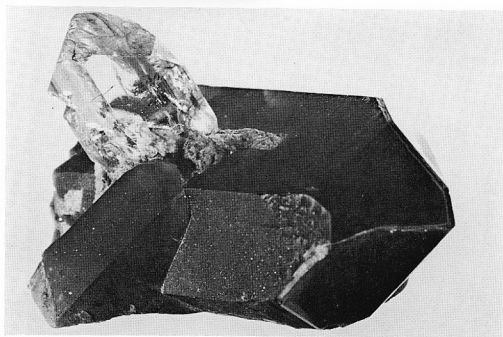


写真1 岡本コレクションは その90%近くが7×9cmの紙小箱に入る比較的小型の標本である。しかし、この写真に見られるように美しい結晶の標本も多く含まれる。
(滋賀県田ノ上山産黄玉(GSJM-8500)(上)と黒水晶上の黄玉の結晶(GSJM-8501)(下))



写真2 標本は木製の専用ケースに 鉱種別の分類に基づいて整理されている。

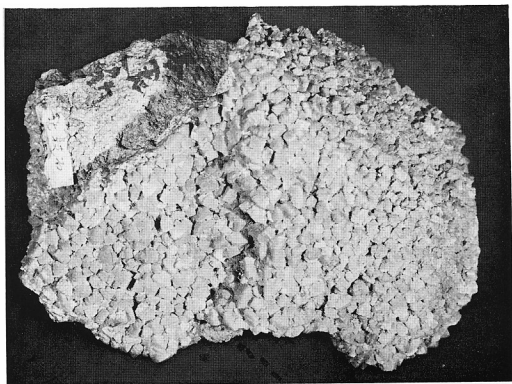


写真3 岡本先生が明治42年(1909年)に初めて記載された北投石(Hokutolite : $(\text{Ba}, \text{Pb}) \text{SO}_4$)は 台湾 北投温泉の温泉沈殿物として産出したものである。放射能を有するが 鉱物学的には鉛を含む重晶石として扱われている。(001) (110)よりなる結晶の亜平行連晶のため結晶面が高曲している。(GSJM-7829) ($\times 2$)



写真4 展示室では 鉄鋼原料鉱物 非鉄原料鉱物 窯業材料鉱物 等資源の見地から分類された展示を行っている。標本は小型のものが多いが 我国の代表的な産地のものがよくそろっている。

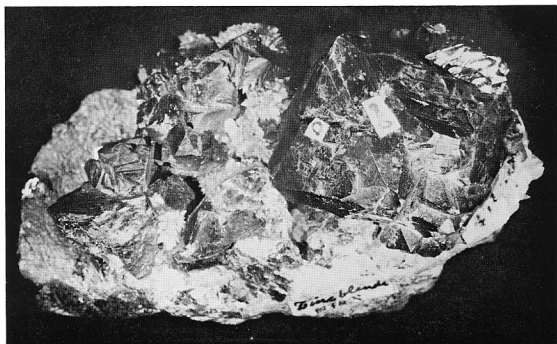


写真5 新潟県白根鉱山産 閃亜鉛鉱の結晶。標本には 先生によってナウマンの記号が書かれた紙片が結晶面上に直接張られている。(GSJM-6823) (×2)

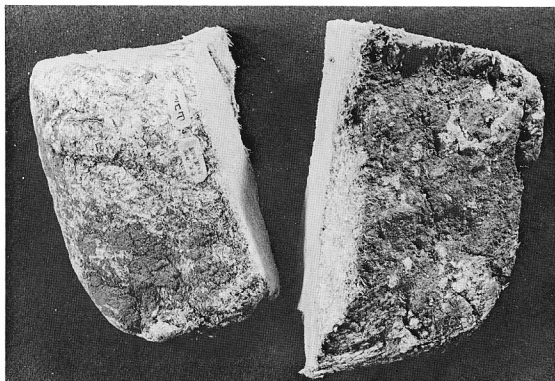


写真6

地質調査所では九州大学名誉教授木下龜城先生のコレクション約2000点を所蔵し、この中には岡本先生が採集されたものが見られるが、岡本コレクションの中にも木下先生の採集されたものが多く、写真の標本は明らかに一つの標本を切断して分けあったものである。中華人民共和国 東北地方産 山コルク：Palygorskite 右が木下コレクションのもの(GSJM-15465) 左が岡本コレクションのもの(GSJM-7601) (×1)



写真7

銅鉱石の展示。この中には先生が戦前に台湾で教育者として過ごされた期間に採集された金瓜石鉱山産 磁石銅鉱の結晶の標本を見ることができる。

近年、鉱物標本は鉱山の休廃止や産地の荒廃によって手に入れることが困難になりつつあり、一方では、鉱物学、岩石学、鉱床学等の進歩・発達に伴って新しい見地からの研究が必要となっており、鉱物標本の重要性は以前にもまして大きくなってきている。

地質調査所では、鉱物・岩石・化石等の地質標本を有効に利用するためにコンピューターを使った新しい管理・検索システムを導入している。岡本コレクションについて、個々の標本の鉱物学的な検討を含め、現在登録作業のためのデータシートを作成を進めているが、コレクションの全容が明らかにされる日も近い。

地質調査所九州出張所々々在：福岡県福岡市南区塩原字アイゾ497-2 電話(092)551-6099